

平成 28 年 12 月 22 日

「単純 X 線検査画像、CT 検査画像および MRI 検査画像を用いた関節リウマチの画像診断を支援するための画像解析に関する後ろ向き研究」へのご参加のお願い

— 平成 17 年 1 月 ～ 平成 28 年 9 月までに当院において

単純 X 線検査画像、CT 検査画像および MRI 検査画像を受けられた方へ —

当院では、以下の臨床研究を実施しています。この研究は、通常の診療で得られた情報の記録に基づき実施する研究です。このような研究は、「人を対象とする医学系研究に関する倫理指針（平成 26 年 12 月 22 日）」により、対象となる患者さんのお一人おひとりから直接同意を得るのではなく、研究内容の情報を公開するとともに、参加拒否の機会を保障することとされています。この研究に関するお問い合わせ、また、ご自身の診療情報が利用されることを了解されない場合は、以下の問い合わせ先にご連絡ください。利用の拒否を申し出られても何ら不利益を被ることはありません。

1. 研究課題名

「単純 X 線検査画像、CT 検査画像および MRI 検査画像を用いた関節リウマチの画像診断を支援するための画像解析に関する後ろ向き研究」

2. 研究期間

平成 29 年 1 月～ 平成 31 年 12 月

3. 研究機関

産業医科大学および九州工業大学

4. 実施責任者

産業医科大学放射線科学教室 准教授 青木 隆敏

5. 研究の目的

関節リウマチは、あらゆる年齢で起こる慢性、自己免疫性、炎症性の関節疾患であり、病因については様々な研究が行われていますが未だ不明です。初期の関節リウマチは、手・足の関節に発症することが多く病態が進行すると関節破壊が起こり患者のQOL(quality of life)を著しく阻害することが知られていますが、近年、開発された生物学的製剤(サイトカイン阻害剤)は、病態早期に使用することで画期的な効果が得られることが報告され、関

節リウマチの早期発見、早期治療が臨床上、重要となっており、これには画像診断技術の改良も課題となっています。

そこで今回我々は、単純X線検査画像、CT検査画像およびMRI検査画像を用いて、関節リウマチによって起こる画像上の病変の自動検出および経時変化をコンピュータを用いて解析し、得られた定量的な特徴量を用いて診断を支援する医用画像支援診断システムを開発することにしました。この研究の成果は、患者さんへより良い関節リウマチの治療を提供するための資料となり、今後の関節リウマチ診療の発展に役立てられます。

6. 研究の方法

産業医科大学病院にて平成17年1月～平成28年9月までに画像検査を実施し、関節リウマチおよび正常と画像診断された患者さんの単純X線検査画像、CT検査画像およびMRI検査画像をデータベースとして、九州工業大学との共同研究により、関節リウマチおよび骨疾病によって起こる画像上の病変の自動検出および経時変化を定量化する医用画像支援診断システムを構築し、完成された医用画像支援診断システムの有用性について評価します。

7. 個人情報の取り扱い

被験者を特定できる個人情報は、一切公表しません。画像データをサーバーから取り出す際に、被験者が特定できないように氏名、住所などの個人情報を全て連結可能匿名化し、研究実施責任者が被験者番号を付して保存します。研究実施責任者は、被験者による開示請求に対応するため被験者番号と実名の対応表を作成し、本学放射線科学教室の鍵のかかる保管庫に保管した上で個人情報を徹底管理し漏洩を防止します。

この研究の実施や得られた成果を学会や論文などに発表する場合には、被験者が特定できないように氏名、住所などの個人情報を全て匿名化したデータのみを用い、個人情報は一切使用しません。また、解析したデータは研究終了後に破棄します。

8. 問い合わせ先

産業医科大学病院 放射線部
職 名：副技師長（診療放射線技師）
氏 名：村上 誠一
電 話：093-603-1611 内線 7118

9. その他

本研究は、既存データを用いる後ろ向き研究であり、対象者への費用負担および研究参加に対する謝礼はありません。